

第五次開成町総合計画策定 町民ワークショップ 提言書

平成 23 年 10 月

開成町町民ワークショップ

目 次

1	町民ワークショップの概要	2
2	町民ワークショップ各回の状況	5
3	提言	10

この提言書は、町民ワークショップの状況と提言内容のみの抜粋版となっています。

はじめに

今回、町の最重要計画である総合計画を策定するにあたり、町民の意向や視点を重視する観点から、町民参加によるワークショップ形式の会議を通じて、今後の総合計画における政策や各施策に反映していただきたい内容を取りまとめた町民提言書を作成することとなりました。

私たちワークショップメンバーは、町の呼びかけに応じて自ら参加の意思を示して集まったメンバーです。まちづくりの専門家ではありませんし、行政について熟知しているわけでもありません。しかし、町民の立場からすれば、今後の開成町はこうあってほしい、こういう取り組みが必要だ、という意見はこれまでも多々ありました。そのためこの会議では、町から提供していただいた様々な資料を参考にさせていただいたほか、一部のメンバーによる偏った意見にならないよう、またそれぞれのメンバーの意見を漏らさず活用するためにフセンや模造紙を使いながら多様な意見を出し合い、町職員の意見も聞きながら、10回の会議を通じて提言書をまとめました。

今後、町や総合計画審議会を通じて「第五次開成町総合計画」が策定されることとなりますが、私たちのまとめた提言書が活用され、最大限反映させていただくことを期待しています。

最後に、私たち町民の生の声を参考にしようと考えていただき、ワークショップという場を提供していただいたことに、心から御礼を申し上げます。また、一緒に参加されたメンバーの皆さん、私たちの今回の役割は提言書を作成することで果たされましたが、今後とも開成町のために私たちのできることを考えて行動していきましょう。

平成 23 年 10 月

開成町町民ワークショップ座長 草柳充之

1 町民ワークショップの概要

(1) 町民ワークショップの構成

町民ワークショップには5つの分科会を置き、いずれか一つの分科会に全員が参加する方式をとりました。

分 科 会 区 分		人 数
分科会A	教育・協働・文化・スポーツ	6人
分科会B	保健福祉・子ども	5人
分科会C	社会基盤整備	5人
分科会D	環境・安全安心	5人
分科会E	産業	5人

(2) 町民ワークショップの軌跡

会議は、平成23年2月から10月にかけて、いずれも開成町民センター大会議室で、午後7時から午後9時までの2時間の中で合計10回開催しました。各回の開催日と会議テーマは次のとおりです。

回	開催日	会議テーマ
第1回	2月24日(木)	町民ワークショップについての共通理解と総合計画についての委員研修
第2回	4月13日(水)	開成町の良いところ・悪いところをリストアップする
第3回	4月21日(木)	町の夢を語る ～こんなまちになったらいいのになぁ～
第4回	5月20日(金)	町の将来像(キャッチフレーズ)を考える
第5回	6月10日(金)	将来像実現に向けた方策の検討
第6回	6月24日(金)	将来像実現に向けた方策の検討
第7回	8月5日(金)	提言内容の修正検討と提言書(中間報告書)の決定
第8回	8月26日(金)	将来像の絞り込みと提言内容の修正検討
第9回	9月16日(金)	提言内容の修正検討と提言書の検討
—	9月24日(土)	総合計画シンポジウムにて中間報告書の発表
第10回	10月14日(金)	提言書の最終決定

(3) 町民ワークショップの進め方

町民提言書をまとめるにあたり、次のような段階を設定し進めていくこととしました。

共通理解を深める

会議ではまず、参加者の共通理解を深めるために、町民ワークショップの役割、全体スケジュール等についての説明を受け、続いて計画策定のために町が実施した町民意識調査結果や、資料提供された開成町の統計数値について報告を受けました。

さらに、町民ワークショップメンバーは、性別も年齢も肩書きも考え方も異なりますが、全員が平等に、公平に参加できるように次のとおり会議のルールを決めました。

- ①参加者に上下関係はなく、水平な関係で意見を出すこと
- ②お互いの話に耳を傾けて受け入れ、頭ごなしに相手の意見を批判しないこと
- ③ワークショップを決められた結論に導くものではなく、思いつくまま自由に意見を出すこと

第2回会議の前半では、「総合計画とは」と題して、現在の自治体を取り巻く状況や総合計画の性格、現行の第四次開成町総合計画の内容などについて、基礎的な情報を共有するための研修を受けました。

まちの現状と課題を知る

第2回会議の後半では、「開成町の良いところ・悪いところ」について話し合いました。

町民意識調査結果や統計数値などから、開成町の現状や町民の意向はある程度把握できていましたが、ワークショップメンバーが考える現状と課題、これを明らかにするために、良いところと悪いところに分けて意見を出し合いました。

まちの将来・理想を描く

開成町の良いところと悪いところを踏まえた上で、第3回会議では、「こんなまちになったらいいのになあ」と題して、10年、20年先のまちの将来や理想的な姿について話し合いました。

財政的な制約や法律などに縛られることなく、本当はこうあってほしい、こうなりたいという理想を描くことで、何が足りないのか、どうしたら実現できるのか、今後の取り組みを考えるきっかけとしました。

まちの将来像を決める

第3回会議で挙げられた理想的なまちの姿をもとに、第4回会議では、町民ワークショップとして、12年後の将来像をキャッチフレーズで考えることとしました。将来像を決めることでワークショップメンバー全員のイメージが共有化され、提言内容全体の方が定まってきます。そのため、各分科会でキャッチフレーズを検討しました。大きな方向性はまとまったものの、将来像の一本化ができなかったことから、第8回会議で将来像の一本化を図りました。

将来像実現に向けた方策の検討

第5回会議以降は、将来像を実現するために必要な取り組みを、分科会ごとに、所管する内容について目標を立て、具体的な施策を提言していくという形で体系的にまとめていきました。

話し合いの中では、町民意識調査結果や統計資料も参考にしたほか、町に追加資料の提供も依頼しながら、提言内容を検討していきました。また、各分科会には町職員にも参加していただき、意見やアドバイスを求めながら内容の精査を図りました。

ワークショップ新聞の発行

各会議終了後には、「開成町町民ワークショップ新聞」を発行し、会議での検討結果や検討風景などをまとめ、次の案内も含めてワークショップメンバーへ配布し、参加者には内容の振り返りを、欠席者には次回への参加を求めるなどの工夫を行いました。

この新聞は検討経緯を広く一般に周知するために、町ホームページにも随時掲載していただきました。

総合計画審議会とのキャッチボール

第6回会議までの内容でとりまとめた中間報告書をもとに、総合計画審議会から意見をいただきました。第9回会議ではその意見に対する回答を作成し、提言書内容の修正と精査を行いました。

また、第10回会議の前に開かれた総合計画シンポジウムでは、中間報告書を活用したパネルディスカッションが行われ、私たちの提言の主旨を説明したほか、参加者から貴重なご意見もいただきました。

(4) 提言書の性格

この提言書は、町や総合計画審議会を通じて「第五次開成町総合計画」を策定するにあたり、町の呼びかけに応じて自らの意思で参加したワークショップメンバーにより、町民の視点から10回の町民ワークショップを重ね、開成町の良いところや悪いところを把握し、こんなまちになったらいいなあという理想を描いた上で、「第五次開成町総合計画」で目指すべき将来像を提言するとともに、行政が所管する分野ごとに将来像を実現するための目標を検討し、具体的な施策や提言をとりまとめたものです。

今後の総合計画の策定作業の中で資料として参考にされ、計画書への反映を検討していただきたいと思います。開成町においては、総合計画を策定するにあたって町民が提言をとりまとめ、提言書として町長に提出するのは初めてのことです。今後、町民と行政の協働のまちづくりを進めるにあたっても貴重な足跡となるものと思います。

2 町民ワークショップ各回の状況

(1) 第1回会議

第1回町民ワークショップでは、ワークショップの開催に先立ち、委嘱状の交付や町長あいさつなどが行われました。

次に、私たちは、ワークショップの役割と運営についての説明を受けました。あわせて、町民意識調査結果や町の統計資料についての説明を受けました。

この説明により、私たちは何をしなければいけないのか、何が求められているのか、今後はどのように会議を進めていくのか、現在の開成町はどのような状況なのかについて、共通の認識を持つことができました。

(2) 第2回会議

ワークショップのメンバーは、町政やまちづくりに精通している人もいれば、そうでない人もいます。そのため、第2回町民ワークショップでは、「総合計画とは」と題して、現在の自治体を取り巻く状況や、総合計画の性格、現行の第四次開成町総合計画の内容などについて、基礎的な情報を共有するための研修を受けました。

開成町では、平成13年度に、「私も主役、“みんなでつくるキラリと輝くまちづくり”」を基本理念に、『人と自然に優しい 連携と交流の都市』を将来都市像とした「第四次開成町総合計画」を策定し、まちづくりを進めてきましたが、平成24年度に計画期間が終了することから、平成25年度からの「第五次開成町総合計画」策定作業の一環として、町民ワークショップが設けられました。

総合計画は、町が策定する分野別個別計画の最も基本となるべき計画であり、すべての計画は、この総合計画と整合を図りながら策定するということを、私たちメンバーは研修で学びました。そのため、「第五次開成町総合計画」は、今後の町政運営の基本となる大事な計画であり、中長期的な視点で今後の開成町がどのような方向に進むべきかを示す舵取りを行う計画になると理解しました。

次に、メンバー自己紹介の後、「開成町の良いところ悪いところに」についてKJ法（検討・収集した情報をカードに記述し、項目ごとに分類・構造化して整理する手法）によるワークショップ形式の会議で、意見を出し合いました。

開成町の良いところは、「自然があふれている」「気候が温暖で住みやすい」「飲み水がおいしい」などの自然環境や気候に関するものが多く挙げられました。

一方で、悪いところは、まちづくりが多くあげられました。なかでも「開成駅前開発の計画が見えない」などの都市開発に関する事、「相談窓口が充実していない」や「人口の割に議員が多すぎる」などの行政・議会に関する事が多くあげられました。

住環境については、「住みやすい」「鉄道の駅がある」といった良いところとして挙げた意見のほか、「道路がでこぼこ」「道路が狭い」「自動車優先の町」といった点が悪いところとして挙げられ、意見が分かれました。

(3) 第 3 回会議

第 3 回町民ワークショップでは「こんなまちになったらいいのになあ」について意見を出し合いコンパクトにまとめてみることにしました。

一番多かったのは自然に関連するものです。具体的には「日本一綺麗な町」「気候が良く住みやすい町」「自然豊かな田園都市のまち」「原風景の町」などです。

次に多かったのは住環境・コミュニティに関連するもので、「住んでいて心地よい空間のあるまち」「みんなが生き生きしているまち」「やさしい人々が集うまち」「つながりのあるまち」「思いやりのあるまち」などです。

この他、「情報公開の町」「住民が主役の町」「散歩が楽しくできる町」「水と花の町開成」など、たくさんの「こんなまち」が挙げられました。

(4) 第 4 回会議

第 4 回町民ワークショップでは「まちの将来像（キャッチフレーズ）」について意見を出し合いました。

メンバー一人ひとりが考えたキーワードやキャッチフレーズを分科会ごとにまとめていきました。各分科会から出された意見は以下のとおりです。

【分科会 A】

- ・キラリ！生き生き！人と自然 開成町
- ・自然・生き生き・心と握手 開成町

【分科会 B】

- ・自然豊かな環境にやさしい夢多きまち
- ・住んでいる人たちの信頼ときずなを大切にするまち
- ・美しく健康で豊かなまち

【分科会 C】

- ・緑と水と光が輝く元気な“まち”

【分科会 D】

- ・きらやか かいせい

【分科会 E】

- ・キラリと輝く小さな星、水と花の町開成
- ・グリーンイノベーションを創造し、豊かな感性を持った人を育てる町

この結果、町民ワークショップにおける第五次開成町総合計画の将来像（キャッチフレーズ）としては、「自然」「自然豊かな環境」「緑と水」「水と花」「グリーンイノベーション」など、自然に関するキーワードが多いこと、「人と自然」「心と握手」「住んでいる人たちの信頼ときずな」「豊かな感性を持った人を育てる」といった人に関するキーワードが多いこと、また、「キラリ」「生き生き」「元気」「夢」「輝き」など、前向きで明るい未来が連想できるキーワードが多いことが確認できました。

各グループの案をみると、開成町はこの先も自然を大切にしながら、住んでいる人が幸せを実感することができるバランスの取れたまちを目指すという方向性を読み取ることが

できます。また、住んでいる人たちが手を取り合い、信頼や絆を大切にして、明るい未来に向けて皆で前向きにまちづくりを行うという方向性も読み取ることができます。

人と自然を大事にする開成、前向きでみんなで頑張っていく開成、こうした将来像を念頭に置きながら５回目以降の会議に臨むこととなりました。

（５）第５回会議

第５回町民ワークショップでは「将来像実現に向けた方策の検討」を行いました。第４回会議で確認された人と自然を大事にする開成、前向きでみんなで頑張っていく開成、こうした将来像を念頭に置きながらの会議になりました。

第５回会議からはグループごとに個別の提言内容を検討することになりました。それぞれのグループが所管する内容は次のとおりです。また、今回から各分科会には町職員にも参加していただき、意見やアドバイスを求めながら内容を検討していきました。

【分科会Ａ】

区 分	教育・協働・文化・スポーツ
所管課	教育総務課・自治活動応援課
主な検討項目	（学校教育）幼稚園、小学校、中学校 （社会教育）文化財、青少年育成 （協働）自治会活動、男女共同参画、国際交流 （文化・スポーツ）文化行政、スポーツ振興

【分科会Ｂ】

区 分	保健福祉・子ども
所管課	福祉課・保険健康課（・教育総務課）
主な検討項目	（福祉）障がい者福祉、高齢者福祉、児童福祉 （健康づくり）各種検診、母子保健 （保険）国民健康保険、介護保険、介護予防、包括支援

【分科会Ｃ】

区 分	社会基盤整備
所管課	街づくり推進課・上下水道課
主な検討項目	（基盤整備）道路、水路、上水道、下水道

【分科会Ｄ】

区 分	環境・安全安心
所管課	環境防災課
主な検討項目	（環境）ごみ処理、し尿処理、廃棄物処理 （安全安心）消防、防災、防犯、交通安全

【分科会E】

区 分	産業
所管課	産業振興課
主な検討項目	(産業) 農業、商業、工業、観光

まずは、それぞれの所管する内容について、各自提案を行いました。日頃考えている提案だけでなく、議論の中で生まれた提案もあります。分科会Bでは、年齢を問わず、お年寄りも子育て世代も子どもも一体となって触れ合える環境（システムづくり）を提案するなど、大きな方向性を検討したグループもありました。各分科会の提案は、それぞれ3～13個の提案にまとまっています。それだけ同じ方向性を向いた提案が多かったと考えています。

（６）第６回会議

第６回町民ワークショップでは第５回会議に引き続き、「将来像実現に向けた方策の検討」を行いました。第５回会議では、各分科会が所管する内容について提案を行いました。第６回会議ではより具体的な内容について提案を行うとともに、新しい提案も検討しました。分科会Aでは、特長のある新しいキャラクターを作成して、開成町をPRしてはどうかという提案も出されました。これまでに提出された提案を体系的に整理する作業も進め、一通り提案の骨子が完成しました。

第６回会議までの検討結果をもとに、提言書の中間報告書としてとりまとめました。

なお、この中間報告書は、町議会や総合計画審議会にも報告され、内容についてご意見をいただくことになりました。

（７）第７回会議

第７回町民ワークショップでは、第６回会議までに検討した提案内容について、再検討を行いました。

その目的は二つあり、一つは、第三者にも伝わる内容になっているか、もう一つは、目標に相応しい内容になっているかでした。明らかに言葉足らずの提案がありましたが、「〇〇を〇〇する」という表現になるよう留意することで、わかりやすい表現にすることができました。また、目標と提案のつながりが明確でない提案もありましたが、目標と提案が目的と手段の関係になっているかを確認することで、提案から提言へのレベルアップを図りました。

（８）第８回会議

第８回町民ワークショップでは、第４回会議でできなかった将来像の絞り込みを全員で

行いました。「信頼ときずな」、「自然豊かな」、「キラリと輝く」、「光輝く元気な“まち”」といったキーワードを使いたいという意見や、第四次開成町総合計画の将来像のように、「まち」ではなく「都市」にしないで良いのかといった意見など、様々な提案がありましたが、すべての意見を網羅しているということから、「明るい未来に向けて人と自然が輝くまち・開成」を将来像として提言することになりました。

将来像が決定したため、これまで各分科会で検討してきた提言内容が、将来像を実現する内容になっているかの確認を行いました。

また、検討してきた提言の中から、重要度をわかりやすくするために、特に重要なものに◎、重要なものに○をつける作業を行いました。

（９）第９回会議

第９回町民ワークショップでは、中間報告書をもとに総合計画審議会で検討していただいた意見や提案に対し、どのように対応するかを決め、回答を作成する作業を行いました。

このうち将来像に関する意見や提案については、第８回会議で十分に検討した経緯もあることから、将来像の変更はしないことを全会一致で決定しました。

各分科会が所管する内容についての意見や提案については、各分科会で対応を検討し、指摘のとおり修正するもの、理由を付記して原案どおりで修正しないもの、新たな対応を記載するものなどを決めました。

回答が作成できた分科会から、第三者にも伝わる内容になっているかと、目標に相応しい内容になっているかについて、他の分科会の体系図も参照しながら最終的な詰めの作業を行いました。

なお、分科会Ｅで検討していたインフラ部分は、基盤整備の分科会Ｃや環境・安全安心の分科会Ｄにも関連する内容ということから検討の結果、独立した項目として提言書に掲載することとしました。

（１０）第１０回会議

第１０回町民ワークショップでは、総合計画シンポジウムの様子や、やりとりなどについて報告がありました。総合計画シンポジウムは２部構成で実施され、第１部では「市町村における総合計画の意義と展望」として、関東学院大学法学部出石稔教授による基調講演が行われました。教授には、まちづくりの大きな方針としての総合計画の意義や、限られた予算や組織の中で、選択と集中により取り組んでいくことが必要であることなどをわかりやすく講演していただきました。第２部ではワークショップメンバー５名もパネラーになり、総合計画審議会会長、町長によるパネルディスカッションを出石教授の進行で実施しました。審議会会長から審議会での意見や質問を投げかけていただき、これにワークショップメンバーが答えていきました。会場からは、「町内でエネルギーの地産地消ができるといい」、「ハザードマップの改訂が必要ではないか」等の意見がありました。

これらを受けて、提言書の提言内容等をワークショップメンバーで最終確認し、町民提言書として決定しました。

3 提言

これまでの町民ワークショップでの議論を踏まえ、次のとおり開成町の将来像と、その実現に向けた具体的な取組みについて提言いたします。

町におかれては、新たな総合計画の策定にあたり、この提言内容を最大限反映させていただきようお願いいたします。

(1) 将来像

『明るい未来に向けて人と自然が輝くまち・開成』

開成町は、自然が豊かで暮らしやすいということが最大の特徴です。

豊かな自然の中で、心地よく住むことのできる人と自然が共存するまちになっています。

工場が建ち並ぶ工業のまちではなく、観光客が多く訪れる観光のまちでもありません。さらに、治安が良く災害が少ない安全・安心のまちでもあります。また、全国的に人口が減少していく中で町の人口は増加傾向にあり、何より子どもたちが多くいることは私たちの未来に希望と勇気を与えてくれています。

今後のまちづくりにおいては、大切にしてきた水、緑、花などの自然を大切に守り育て、自然が輝くまちを目指します。

また、心身の健康はもちろんのこと、隣近所の人たちとの信頼関係や支え合う力、すなわち「絆」で結ばれた町民一人ひとりが、活き活きと輝けるまちを目指します。

人口減少社会に突入し、経済の低成長が続く中、少子化と高齢化が進展し、未曾有の大災害となった東日本大震災が発生するなど、わが国を取り巻く環境は厳しいものがありますが、開成町は「明るい未来に向けて人と自然が輝くまち・開成」を将来像とし、町民と行政が一緒になってまちづくりを進めることを提言します。

(2) 将来像実現に向けた取り組み

「明るい未来に向けて人と自然が輝くまち・開成」に向けて、将来にわたってあるべき姿を「目標」として掲げ、その「目標」の実現に向かった方策を「施策・提言」として整理しました。

このうち、特に重要なものには◎、重要なものには○をつけています。

分科会Aは「教育・協働・文化・スポーツ」について、分科会Bは「保健福祉・子ども」について、分科会Cは「社会基盤整備」について、分科会Dは「環境・安全安心」について、分科会Eは「産業」についてまとめました。

なお、「インフラ」については、複数の分科会に関連するため、「産業」の枠から外して掲載することとしました。

【提言内容一覧】

【提言内容一覧】

分科会 A（教育・協働、文化・スポーツ）

項 目	目 標
【学校教育】 ■ 幼稚園、小学校、中学校	■ 健康な心とからだづくり ■ 夢を持てる教育 ■ 福祉の心を持てる教育
【社会教育】 ■ 社会教育 ■ 家庭教育	■ 若者達の「人間性」「有能性」を高める ■ 家庭教育の充実
【協働】 ■ 協働 ■ 自治会活動 ■ 国際交流	■ 協働のまちづくり ■ 町民が元気になるための活動 ■ グローバル人材の育成
【文化・スポーツ】 ■ 文化行政 ■ スポーツ振興	■ 文化を守り発展させる ■ 運動の日常化 ■ スポーツを通じて連帯感の向上

施策・提言

- 町民の体力・スポーツテストの企画をする（ ）
 - 公立の小・中一貫教育を行い知力・学力をあげる
 - 幼稚園・保育園の数を増やす→子供園？！（ ）
 - 図書室を広くする
 - 大人の技能・技術・知恵を活用し、古き良きものを伝承する
 - 道徳心（モラル）を養う授業の充実を図る（○）
 - 小学生・中学生が老人ホーム等と交流をする（○）
-
- 防災マニュアルを配布して防災教育を行う
 - 防災訓練の参加を義務化する
 - 青少年を対象とした生涯学習（お茶・お花など）を設ける
 - 国内外の学生と交換留学する（○）
 - 教育相談の窓口をPRする
 - 子どもの成長に応じた相談窓口を用意する
-
- 町民と行政が情報を共有する
 - 自治会の加入率を向上させる中で人材を発掘・育成する
 - 町民全員が参加できる行事、イベントをつくる（阿波おどり、宝探し、ウォークラリー）（○）
 - 町議会等に積極的に参加し行政に関心を持つようにする（ ）
 - 姉妹都市をつくる（ ）
 - ホームステイ制度をつくる（○）
 - 国際交流の制度をつくる
-
- 四季を通じお祭りをを行う（○）
 - 小田急開成駅前に情報が全てわかる場をつくる（ ）
 - 禹王（文命）祭など町の文化をひろめる
 - 町の歴史（歴史検定）を学べる場をつくる（○）
 - 各文化団体の交流を深める（○）
 - 自然とふれあえるサイクルシティの実現を図る
 - 誰もが参加できるような機会をつくって生涯スポーツに取り組めるようにする
 - 大人も子どもも参加できるスポーツを企画する（ ）
 - 町民体育祭を復活させる
-

分科会B（保健福祉・子ども）

— 14 —

施策・提言

- 障がい者の働ける場を増やす（一般就労）
 - 作業所を設置する（福祉的就労）
 - 障がいのある人もない人も参加できるふれあい農園をつくる（○）

 - 障がいの種類に関わらず、障がい者の社会参加を促進する
 - 心のバリアフリー（回りの人々のあたたかい心）を育てる

 - 古民家等を活かしてお年寄りが気軽に話し合い語り合える場をつくる

 - 自治会館を利用し子供とお年寄りのいこいの場を増やす
 - 地域ぐるみで園芸を楽しめる共同農場をつくる（○）
 - 日常的に自治会と連携して活動する（○）

 - 地場産移動マーケットをつくる＜農業経験者の出番＞
 - 遊休農地の（開放）活用（約 70ha）する

 - あいさつ、声かけ運動を盛り上げる
 - 24 時間対応できるホットラインをつくる（ ）
 - 高齢者向け住まいを確保する

 - 自治会館を利用し子供とお年寄りのいこいの場を増やす
 - 子供の安全な遊び場を増やす

 - 地域住民による見守りを充実させる
 - 子育て支援を充実する（ ）
 - 子どもの医療費を充実する（○）
-
- 町の健康促進チームを結成する（ ）
 - 地域・町ぐるみの定期健康診断を支援する
 - 町として多方面の健康づくり運動をすすめる（健康教室、健康セミナー等）

 - 総合病院をつくる
 - クリニック等の設置をする（ ）
-

【提言内容一覧】

分科会C（社会基盤整備）

項 目	目 標
【基盤整備】	
■ 道路	■ 幹線道路の整備
	■ 道路の整備
■ 公園	■ 既存公園の利用管理方法の見直し
■ 上下水道	■ 上下水道の整備（計画作成と周知化）
■ 公共交通	■ 公共交通機関の整備（バス・電車）
■ 防災	■ 豪雨災害への対応、防災対策の強化
■ 施設	■ 既存施設の管理及び利用方法の見直し

施策・提言

- 歩行環境を整備しバリアフリー化する（○）
- 歩行者道路を確保した道路をつくる
- 歩行者優先の道路につくり直す
- 町道 201 号線の通学路を整備する
- 主要道路（小田原への）を整備する（ ）
- 計画的に路線単位に道路舗装を整備する（○）
- 北部地域の路面の再整備をする（ ）

- 街灯の少ない所に設置をする
- 酒匂川新堤防の道路化をする（広域行政を推進）
- 段差、見通し等危険個所を計画的に改善する

- 災害に対応できる公園に整備する（ ）
- 各公園の手入れを強化する
- ホタルのいる公園をつくる
- オリエンテーリングのインストラクターを養成して公園をスポーツ的に活用する
- 管理経費と利用頻度の観点から必要性を見直し、公園の再整備を行う（ ）
- 維持・管理しやすい公園づくりをする
- 植樹・樹種の見直しをする（○）

- 水道施設の見学を行って（小学生）意識を高める
- 自然を壊さず自然を活かした水路づくり
- 安全な飲み水の確保をする（ ）
- 中小河川等の水質の改善をする
- 下水の入らない水路をつくる（下水道普及率 100%）（ ）

- 小田急開成駅への小田急の停車本数の増加をはかる（ ）
- 小田急開成駅発着のバス回数の増加をはかる（○）
- コミュニティバスを運行する（ ）

- 水害ハザードマップをつくり公知化して、災害時の避難基準をつくる（ ）
- 水路・水門の地図化と、非常時の対応マニュアルをつくり水害を防止する
- 大災害時に町機能維持の為に訓練を行う（ ）
- （町民と職員と合同）防災訓練方法を見直し、大災害にそなえる
- 10 年確率雨量基準を見直して水路計画をする
- 大災害時の上水道機能確保と配給機能を再検証する

- 自然エネルギーを利用して使用期間を延長する（低学年幼児プール）
- プール・公民館・福祉会館等のランニングコスト利用頻度を見直し効率化をはかる（○）
- 耐震性と福祉機能を充実した庁舎に建て直す（ ）

【提言内容一覧】

分科会D（環境・安全安心）

項 目	目 標
【環境】 ■ ごみ処理	■ 生活環境の改善
【安全安心】 ■ 消防、防災 ■ 交通安全、防犯	■ 街並の安全を図り景観の美化に努める ■ 安心して暮せる環境の整備

施策・提言

- 資源ごみの場所移動（燃えるゴミの所へ）
 - 粗大ごみの料金の細分化
 - 新聞や雑誌の捨てる場所を増やす
 - ごみの設置場所をネットのみでなく、ごみを入れるボックスを設置する（○）
 - クリーンデーの見直し
 - ・回数増（補助金復活）・ボランティア募集
 - エネルギーの地産地消を行うため、風力・水力発電・太陽光発電（県の方針に町として）を検討する
 - 省エネ家電購入促進（ ）
 - ・LED電球
 - 町一斉節電の日、省エネの日を新たにつくる
 - プロムナードづくり（遊歩道）（ ）
 - 森林公園をつくり人のいこいの場所にする
 - みどりが映える田園の道を整備（のどかな自然）
 - 大きな広葉樹で街路をつくりいこいの通りとする
-
- 無電柱（電柱撤去）（ ）
 - 屋外広告物条例（住居専用地区・美観地区・風致地区での禁止など）
 - 旗広告の自粛
 - 歩道の看板の撤去（自粛）
 - 工場から粉塵及びにおいの改善（○）
 - 止まれ表示を道路に増やす
 - ハザードマップの改訂と鮎沢川の水位情報の公開を行う
-
- 街灯を増やす
 - カーブミラー設置（見直し）
 - 入り易い消防団
 - サポーター制度（副組長中心）
 - 消防団詰所の新設検討
 - 交番開設（ ）
 - ・県警への署名活動・県議への要望書
 - 不審者に対する通報・通告制度の導入
 - 指導員に対し権限移譲
 - 交通安全啓蒙活動を増やす
 - ・ヒヤットマップ（事故多発地帯の地図）の新設
 - ・学校や職場でのスタントマン実演
 - 救急車とパトカーが連携して出動する
 - 防犯カメラの設置（○）
 - （主要交差点、駅前広場、河川入口（パークゴルフ近辺）、足柄大橋下）
 - 歩道橋の設置（マクドナルド前）
 - 「だいじょうぶ」を合言葉にしたキャンペーンをつくる
 - 小学校の回りの道路にハンプをつくり速度を制限する
-

【提言内容一覧】

分科会 E（産業）

項 目	目 標
【産業】 ■ 農業 ■ 商業 ■ 工業、雇用 ■ 観光	■ ブランド化された農産物を中心とした 6 次産業の創成（ ） ■ 先進技術を利用した総合的な農業体系の基盤づくり ■ 開成町の町民が開成町でつくられた作物を手にする機会を増やす ■ 作物の情報発信（作ったら、売りにいくぞ！） ■ 花の町づくり ■ 商業施設（shopping mall complex） 地域住民・周辺住民共に利用できるものが欲しい（土地案：南小学校前） ■ 企業と町が強く共生できる関係の構築（ ） ■ 企業を誘致しやすい方針を町が持つ ■ 定期的なイベントの開催と通年的な人を呼ぶ魅力を ■ ブランド品観光のまちづくり
【インフラ】 ■ インフラ	■ インフラの充実 ■ スマートグリッドモデル都市となり近代的インフラの充実

施策・提言

- ブランド化した米をつくるため開発者を呼ぶ
 - 温暖化に対応した米・その他新種開発、改良の実施
 - 開成でつくられる米はどれ程の品質を保有しているのか調査する必要がある
 - 具体的に現状調査をする。（先ず、ブランド米について）
 - アジサイの葉の漢方薬化
 - アジサイの含有する成分に人に良い影響を補えるような薬等をつくる成分があるか調査してほしい

 - 企業から地域貢献を引き出す（ ）
 - Only One 企業の育成（強い中小企業をつくる）

 - 地元のスーパー、朝市、お祭りで販売し P R しながら町の機関紙で応援する

 - 地域でつくっている農作物の詳細な情報を町が作成する
 - 具体的な組織化を応援する
 - 町の生産物を外部へ発信していく商業的窓口の設置＊地場農産物

 - 耕作放棄地に町の補助で花を植える

 - 町有地を活用して開成駅周辺にショッピングセンターをつくる
 - 町がインターネット販売をバックアップする
 - アンテナショップを拡充させる

 - 企業から地域貢献を引き出す（ ）
 - 税収～％増加させる（どの程度のキボの企業を何社という具体的指針を持つ）
 - 既存企業を未来型企業に変改する
 - 雇用の拡大 6 次産業創成による
 - 企業活動と自然環境がバランスを保てるようにする

 - Only One 企業の育成（強い中小企業をつくる）
 - 世界にも類を見ないものの研究開発に奨励金（100 万円/件）を出す
 - 富士先進研関連（技術製品）企業の誘致
 - 目的を絞って企業を誘致（先端技術）（ ）

 - 人を引き付けて消費させるようなサイクルを持った循環構造を持った観光づくり
 - 人が来るイベントをつくる（ ）
 - 四季を通したイベントの発信（ ）
 - （観光用として）河川敷を利用して花を植えて観光客を増やす

 - ブランド品（農作物など）花をつくる
-
- 南小学校前の道路を“適切”に開発する
 - 公共の交通機関の利用を促す仕組みをつくる
 - 電気自動車を企業から借り受けてマイタクシー（百円タクシー）を導入する
 - 自然保全地区と町開発地区を区別した人の行来（往来）のあるインフラづくりにする

 - 最先端の企業と連携していく
 - 早期小水力発電の実現とソーラー発電を推進する
-

第五次開成町総合計画策定
町民ワークショップ
提言書

平成 23 年 10 月

開成町町民ワークショップ